

ブリ種苗放流技術開発事業*

概 要

中地 良樹

目 的

社団法人日本栽培漁業協会から委託されたブリ種苗放流技術開発調査事業で、本県沿岸域におけるブリの満 1歳魚以降の分布、生態を究明するため、標識放流と漁獲実態等の関連調査を継続実施している。

詳細は「ブリ種苗放流技術開発事業、平成 6年度報告、社団法人日本栽培漁業協会」として別途報告したので、ここでは概要を述べる。

方 法

1 標識放流調査

標識放流は、1995年 2月27～28日に和歌山県西牟婁郡白浜町の田辺湾沖にメジロ級（養殖魚）280尾を実施した。この放流群を順に「'94A 白浜放流群」、「'94B 白浜放流群」と呼ぶ。

2 関連調査

加太、串本の 2漁協で銘柄別漁獲量調査、加太、湯浅中央、白浜 3港（白浜、富田、椿の 3支所）、見老津、里野の 5ヶ所での標識率調査を実施した。

結 果

1 標識放流調査

標識魚の再捕は、平成 5年度放流群（'93A, '93B 串本放流群）および平成 6年度放流群（'94A, '94B 白浜放流群）で、平成 4年度以前の放流群の報告はなかった。

（1）'93A 串本放流群

追加再捕報告は、1994年12月21日の潮岬天然礁（シアイ瀬）における釣りによる 1尾であり、再捕尾数合計は 7尾、再捕率は16.3%であった。再捕個体は放流378日後で尾叉長75.2cm、体重5.8kgに成長していた（図 1）。

（2）'93B 串本放流群

追加再捕報告は、放流 30日後の1994年 4月 1日

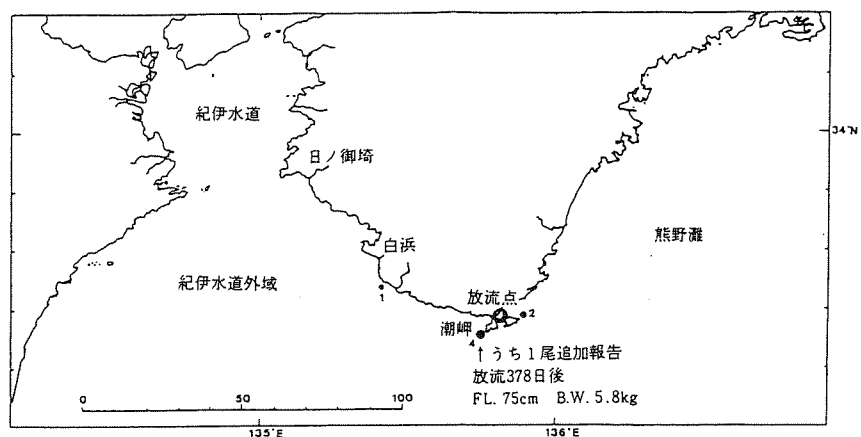


図1 93A串本放流群 (93.12.8 43尾放流 メジロ級天然魚) の再捕場所

再捕獲合計 7尾
再捕率 16.28%

*ブリ種苗技術開発事業費による。

に徳島県海部郡鞆浦地先の大型定置網で3尾、同郡鞆浦地先の刺網で1尾、放流31日後の1994年4月2日に高知県室戸岬町椎名地先の刺網で1尾、放流94日後の1994年6月4日に高知県土佐清水市窪津地先の定置網で1尾および再捕日不明（1995年2月中旬～3月中旬）に高知県窪川町興津地先の大型定置網で1尾の5件、合計再捕尾数15尾、再捕率は34.9%であった（図2）。

本放流群の追加再捕は1994年春季に多く、これは春季メジロ級の再捕報告のあった過去のデータと一致している。またブリ級の一部は春季にかなりの距離を南下していると推察されるが、これに続く再捕報告は極めて少ない。

（3）'94A白浜放流群 再捕報告は、放流翌日から25日後の1995年3月24日まで16件、32尾で再捕率は22.9%であった。再捕魚32尾のうち25尾は養殖場の田辺湾内に戻り、放流地点からの最大移動距離は13.1kmであった（図3）。

（4）'94B白浜放流群

再捕報告は、放流翌日から27日後の1995年3月27日まで28件、44尾で再捕率は31.4%であった。本放流群の田辺湾内での再捕は7尾であり、'94A白浜放流群のそれよりも少ない。また、放流魚の移動距離は僅かではあるが'94A白浜放流群よりも長く最大23.0kmである（図4）。これは放流地点が'94A白浜放流群よりも沖合域であることが影響していると推察される。放流魚の移動方向はいずれも本県沿岸域を南下し、北上はみられなかった。このことは、平成2年度から実施してきた天然メジロの標識放流結果とよく対応している。

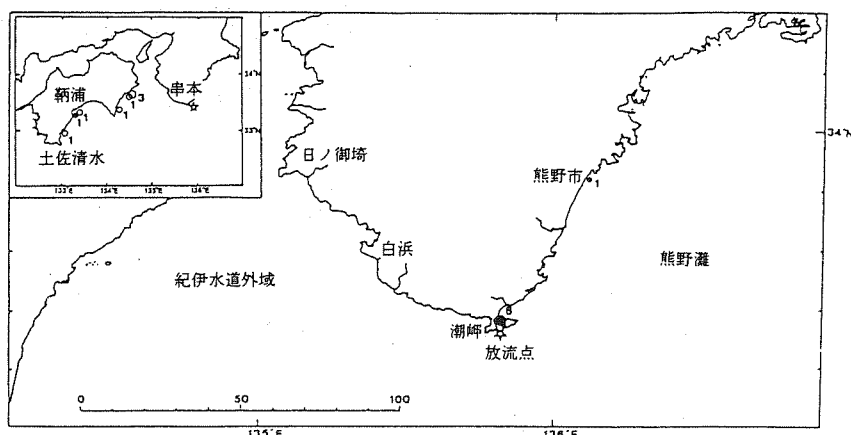


図2 93B串本放流群（94.3.2 73尾放流 ブリ級天然魚）の再捕場所
 再捕獲合計 15尾（黒丸：前年度報告 白丸：追加報告）
 再捕率 34.88%

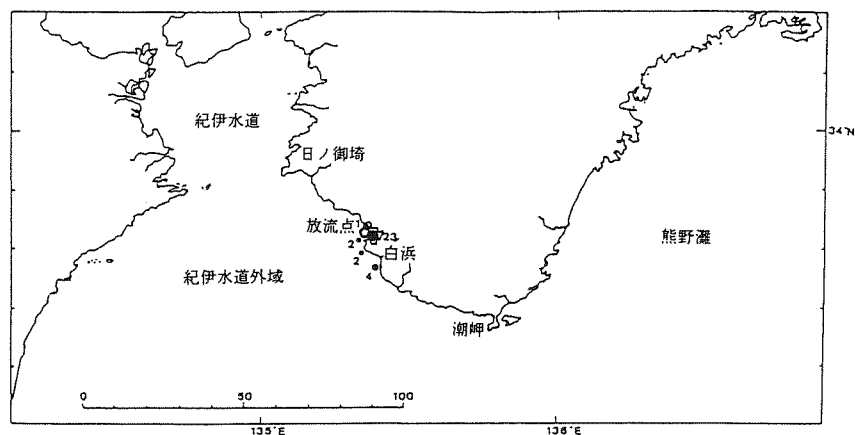


図3 94A白浜放流群（95.2.27 140尾放流 メジロ級養殖魚）の再捕場所
 再捕獲合計 32尾
 再捕率 22.86%

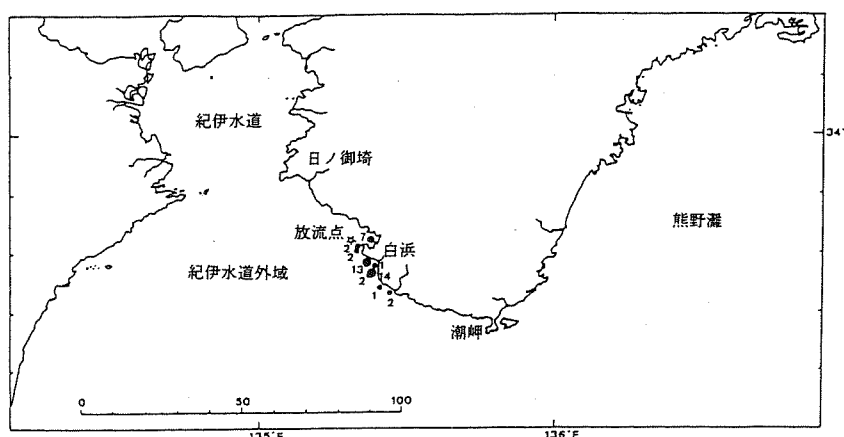


図4 94B白浜放流群 (95.2.28 140尾放流 メジロ級養殖魚) の再捕場所

再捕獲合計	44尾
再捕率	31.43%

2 関連調査

(1) 銘柄別漁獲量調査

加太： ツバスは好漁であった前年の 18.9%、0.7 t と極めて低調であった。しかし、ハマチは前年の 2.6倍、18.2 t、メジロも前年の 4.2倍、17.0 t が漁獲され大きく上回った。ブリ類（ツバス～メジロ）の総漁獲量は、前年の14.0 t を上回る35.9 t となった。

串本： ツバスは近年でも著しく低調であった平成 4年の39.3%にあたる 0.3 t と極めて不漁であり、ハマチも前年の 27.7%、11.7 t に過ぎない。メジロは前年の25.9 t を上回る 62.2 t であり、ブリも前年の 16.5倍、24.7 t の好漁となった。このように中・大型魚が前年を上回ったことから、ブリ類（ツバス～ブリ）の総漁獲量は、前年の1.3倍、99.0 t となった。

(2) 漁獲尾数調査

加太：ハマチ級（当才魚）は、前年の 47.7%、6,145尾と半減した。しかし、メジロは、前年を大きく上回る7.1倍、6,549尾であった。

湯浅中央：ハマチ級は、前年の1.2倍、1,816尾であり、メジロ級もほぼ前年並の1.1倍、250尾で依然低調であった。

白浜：ハマチ級は、1995年 3月に瀬戸崎沿岸に漁場が形成されたこともあって、前年を大きく上回る 6.7倍、1,619尾であった。メジロ級も1995年 1月下旬から 3月下旬にみられ、前年の2.8倍にあたる1,011尾であった。

見老津：漁獲重量は、前年の39%と大きく下回る6.6 t で近年にない不漁となった。

(3) 有標識率調査

加太、湯浅中央、見老津では、標識魚の再捕は全くなかった。有標識率は、白浜（白浜、富田、椿の 3支所）ではメジロ級で7.0%、ブリ類（ツバス～ブリ）で2.7%であり従来より若干高くなった。メジロ級の有標識率が高い要因は、白浜放流群の再捕が多かったことである。しかし、里野では、メジロ級で0.8%、全体で 0.02%であり従来同様 1%未満であった。